

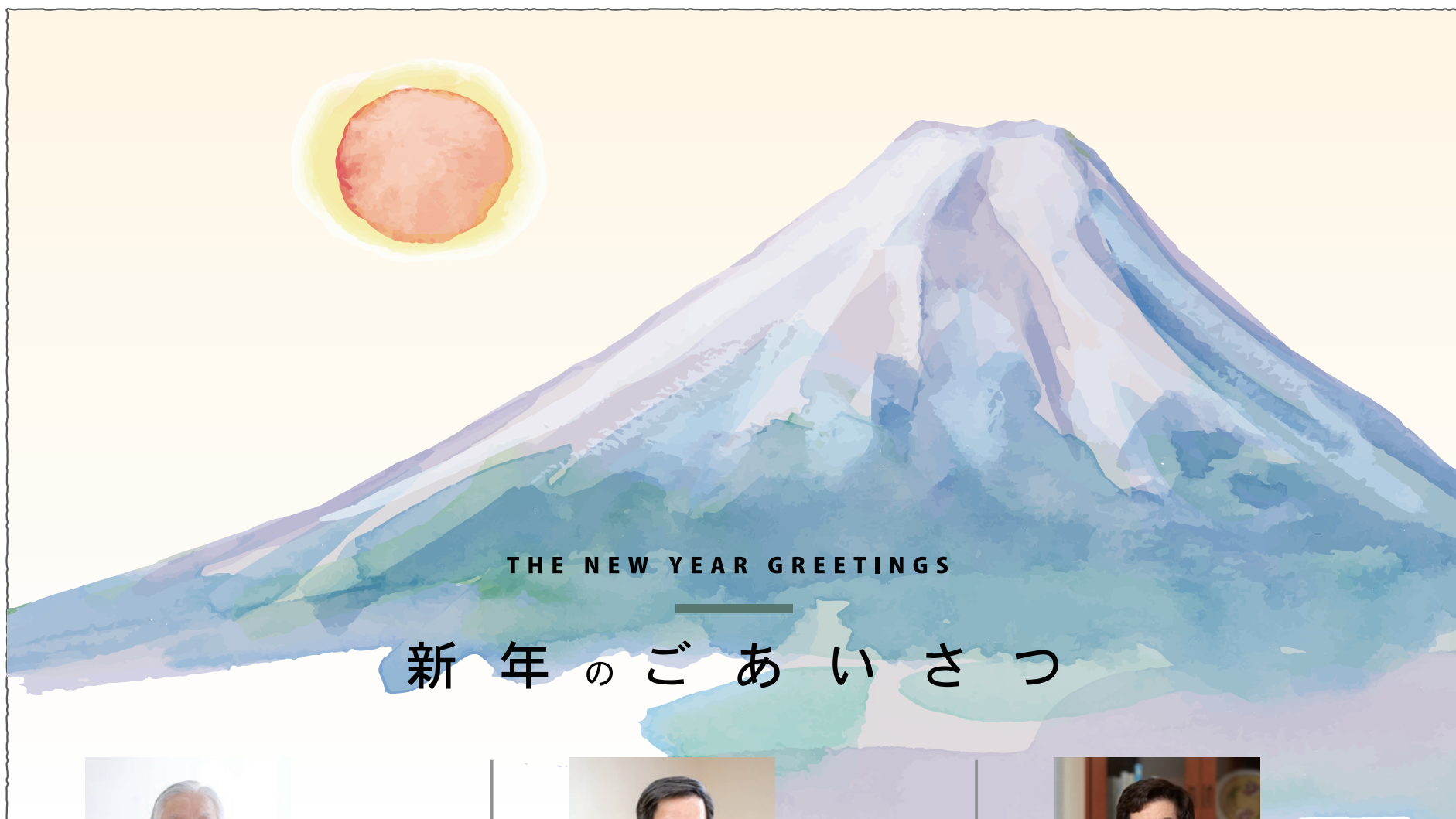
〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学園
文京学院大学外国語学部・経営学部・
人間学部・保健医療技術学部／大学院
／文京学院大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部
／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806

〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校／文京学院
大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301



令和4年(2022年)
新春特別号
第773号
発行
学校法人文京学園
<http://bgu.ac.jp>



学長
櫻井 隆

強い志と共に

新年に当たり、ご挨拶を申し上げます。

一昨年来続く新型コロナウイルス感染症拡大によって世界は大きく変化しました。大学も例外ではありません。これまでですべて対面授業であったものが、ハイフレックス授業も多く取り入れられるようになり、今までの常識が通じないニューノーマル社会を迎えました。しかし、我が文京学院大学は、昨年10月23日に開催された「大学開学30周年記念式典」の中で“facilitator宣言”をしました。これは、これから本学は学生に寄り添っていくとの決意表明です。わくわく悩む学生に教職員をはじめ先輩や地域・社会・企業などが一体となって学生を育てていくという意味です。それが「共に育つ」ということであると考えています。

さて、本学は学園創立100周年となる2024年を目指してB'sビジョンを展開していますが、あと2年でその年が参ります。その後のB'sビジョンについては「大学開学30周年記念式典」の中で「BGUグランドデザイン10年計画」を100周年に発表できるように開始する旨の報告をしました。これから大学はもとより、学生の皆さんも大きな変革期を迎えますが、強い志をもって前に進んでほしいと念願しています。創立者島田依史子先生は『私の歩んだ道』の中で「困難を恐れずに自らの信ずる道をまい進することができたのは・・・若ものの生命力、行動力があつたればこそであろうか」と述べられております(同108頁)。

本年も本学学生の皆さんが困難を恐れずに自らの信ずる道をまい進することを願っています。



理事長
島田 昌和

新しい教育スタイルへ

2022年の新しい年を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年、後期中からは緊急事態宣言が明け、キャンパスに学生の姿が戻り、マスクをし、黙食を強いられるものの、活気が感じられるキャンパスに戻ってまいりました。学生・生徒や教職員と交わす何気ない会話の大事さを実感できる日々となりましたが、新型コロナウイルスの新型種などへの注意を怠ってはいけな日々が続くことは言うまでもありません。

知識偏重型の従来の学習から、自ら学ぶ能動的な学習のために集い、発信することで知識と気づきを身につけるインタラクティブな学習への移行が、コロナ禍によって加速しています。これらの新たな局面で気づき始めた学びの変化を、コロナが完全終息したとしても、後戻りさせてはいけな、そのために次なるウィズコロナのステップでどう学習を進化させなければいけないかが問われていると感じています。そのための果敢な教育投資、学びが困難な学生や生徒への教育支援を手厚く考えてまいります。

昨年、大学においては学部や学科、新組織の立ち上げ計画に着手し、今年はそれにむかって力強く踏み出す年となります。中高においては、いよいよ1月24日より、旧進学棟にアオバジャパン・インターナショナルの生徒が登校を開始し、本格的な交流がスタートします。このような動きをふまえて2年後の2024年の学園創立100周年には、新しい教育スタイルに全面移行できるための始動年となりたいものです。本年も何卒よろしくお願いいたします。



学園長
島田 燐子

地球危機を自覚し謙虚に

年頭に当たり本年も皆様が健康で幸多い年でありますよう祈念申し上げます。

2021年はオリンピック、パラリンピックも無事に行われましたが、新型コロナウイルスの猛威が長期間続き経済的にも精神的にもつらい方が多かったことと拝察いたします。

昨年、コロナとともに意識されたのが世界各地での集中豪雨、森林火災、海中温度の上昇による水没等、気候危機の深化でしょう。8月に発表された気候変動に関する政府間パネルの第6次評価報告書では地表の平均気温上昇を1.5度に抑えるというパリ協定目標の脱炭素が大きな課題となりました。ご存じのように温室効果ガスを最も多く排出するのは石炭による火力発電です。これを無くしてクリーンエネルギーにすればよいのですが電力の安定的な供給という観点からは実は簡単ではないようです。特に発展途上国には厳しいのですが、でもやらなくてはならないのです。プラスチック使用量の削減に取り組む企業もみられるようになっています。これまでのライフスタイルからすると不便になるかもしれませんが取り組んでいかなければなりません。

人類は産業革命以来便利さを求めてやってきましたが、どうやらこの地球に住まわせていただく謙虚さを取り戻す時期になったことを知る年になりましょう。

こうした自覚の上に学園の各校は現代にふさわしい新しい生き方、学び方を計画し、着実に実行してまいります。そして、学生、生徒、園児の一人ひとりに寄り添って成長を助けていきますので、どうか皆さま積極的に取り組んでいただきたいと思います。

大学

全国学生英語プレゼンテーション
コンテスト
外国語学部生が大健闘

11月27日、「第10回 全国学生英語プレゼンテーションコンテスト」(主催:神田外語グループ・読売新聞社)が開催され、外国語学部渡部吉昭教授のゼミナールに所属するチームが「奨励賞」を受賞しました。また「トップ50賞」に外国語学部生5名も入賞しました。

同コンテストは、グローバル社会での活躍を期待される学生たちのスキルアップの場を提供することを目的に、2012年から開催されています。オンラインで開催された今回は、総勢747名がエントリーし、予選を勝ち抜いた17名(個人の部:4名、グループの部:5チーム13名)が本選に臨みました。

本選に出場した渡部ゼミ3年の谷口美紅さん、雨宮玲奈さんは、テーマ「SDGs達成のために私たちが継続して出来ることを提案!」を選択し、「夜間中学」について研究し発表。これまでに学んだ英語スキルを十分に発揮して、見事「奨励賞」受賞となりました。また「トップ50賞」に外国語学部生2チーム5名が選出されるなど、目覚ましい成果をあげたコンテストとなりました。



奨励賞を受賞した谷口さん(左)と雨宮さん(右)

【奨励賞】

外国語学部3年:谷口美紅・雨宮玲奈(渡部ゼミナール)

【トップ50賞】2チーム

外国語学部3年:池田愛美・菅原美月・綿谷瑠那(渡部ゼミナール)

外国語学部3年:栗原麻衣(甲斐田方智子ゼミナール)・多留見彩(棚橋サンドラゼミナール)

「奨励賞」を受賞した谷口さん、雨宮さんからの次のコメントが寄せられました。

「『夜間中学』とは、義務教育を十分に受けることができなかった方や外国の方を対象に無料で学習支援を行っている学校です。取材中に見つけた学校数の不足、ボランティアの高齢化などの課題解決のため、『大学生による夜間中学』を実際に開講しました。生徒の人生に花を咲かせるという意味を込めこの学校を『Bloom School』と名付け、具体的な活動計画を大会で提案しました。奨励賞をいただくことができ、私たちにとって貴重な財産となりました」

大学

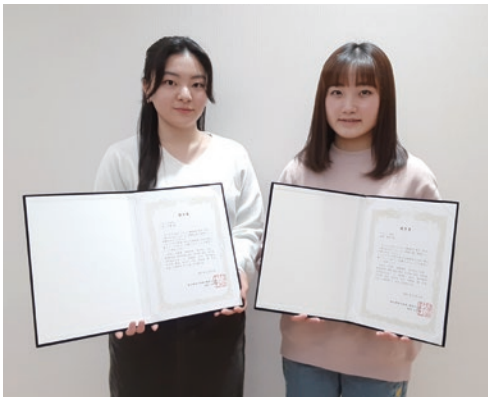
韓国語スピーチコンテスト
外国語学部生が本学初の
「優秀賞」受賞

12月4日に開催された、韓国語スピーチコンテスト「話してみよう韓国語」(主催:各大会実行委員会、駐日韓国大使館 韓国文化院 東京・学生/一般大会2021<一般スキット部門>の2次審査(本選)に、外国語学部1年生の学生2名が出場し「優秀賞」を受賞しました。本大会における本選出場ならびに「優秀賞」受賞は、本学として共に初めてとなります。

同コンテストは、一般から大学生・中高生まで幅広い韓国語の学習者が参加し、韓国語の表現力を競う大会です。2003年から東京と大阪で始まり、「楽しみながら韓国語の表現力を見せる場」として、毎年多くの方が参加しています。本学の板垣舞雪さんと大金千夏さんは、2人1組で参加し、制限時間3分で指定された台本を暗記し自由創作を加え韓国語の発音や表現力を競う“スキット部門”に出場しました。わずか4組が進出した本選は、駐日韓国大使館 韓国文化院ハンマダンホールにて開催され、板垣さん・大金さんペアは練習の成果をいかに発揮し、本学初の「優秀賞」受賞となりました。板垣さんと大金さんから次のコメントが寄せられました。

板垣「初めての出場でしたので、賞を取ることも韓国語を楽しむという気持ちの方が大きかったです。『優秀賞』という評価をいただき、今後は、より多くの人々と韓国語でコミュニケーションをしたいと強く思うようになりました」

大金「今大会では今までの学びと練習の成果を落ち着いて表現し、後悔のない結果を出すことができました。今後も学内にあるチャット・ラウンジの活用や、韓国語の勉強を継続しながら、文化的背景からの学びも深めていきたいです」

優秀賞を受賞した大金さん(左)と板垣さん(右)
(撮影時のマスクなし)

高校

「東京私立中学高等学校 生徒写真・美術展」
美術部生徒が入選

11月18日から23日まで、東京都美術館で開催された「第49回東京私立中学高等学校 生徒写真・美術展(主催:一般財団法人 東京私立中学高等学校協会)」の美術部門で、美術部の牛込光虹さん(高2萩)、江口未優さん(高2楓)、浦野桃さん(高2樟)の3名が入選しました。入選した3名から次のコメントが寄せられました。



牛込光虹 作品: FISH EYES

「今回は魚の目の痕と人間の顔を合わせた作品になっています。厚塗りを人生で初めて挑戦したのですがとても難しかったです。また機会があれば、もう少し大きいキャンバスに描いてみようと思います」

江口未優 作品: 白昼夢

「今回の作品は夏休み期間に制作したもので、カブトムシや虫とり網、絵日記等、夏の要素を主に取り入れて描きました。私が描いた絵は細かい模様が特徴です。細かい模様を描くのに時間と労力がかかりました。制作時間は30時間程です。美術展に出品した事でこれまで以上に作品制作意欲が高まりました」

浦野 桃 作品: 帰還

「今回は海賊船をテーマに描きました。海賊船自体初めて書いたので、船の骨組みや形などがわからず、沢山調べて何度も描いたり調べたりしているうちに船に詳しくなったので、勉強になりました」

大学

飯島史朗教授
「緒方富雄賞」受賞

保健医療技術学部の飯島史朗教授が、第37回(2021年)「緒方富雄賞」を公益社団法人日本臨床検査同学院より受賞しました。

「緒方富雄賞」は、同院の初代院長 故 緒方富雄氏が1985年の日本臨床検査同学院設立10周年記念行事の一環として提唱し、制定された賞です。同賞は、臨床検査領域の技術・教育を通じて医療の発展に著しく貢献した、臨床検査技師あるいは衛生検査技師に授与されます。今回、飯島教授は「電気泳動法の研究およびその多発性骨髄腫病態解析への応用ならび臨床化学領域での卒前・卒後教育活動」の研究発表において高く評価をいただき、受賞にいたりしました。なお、本学としては、4人目の受賞者となります。飯島教授から次のコメントが寄せられました。

飯島「今回の受賞を通して私に与えられた責務は、人生の分岐点に立った時、どの道を選択しても『継続して努力したことは必ず役立つ』ことを後進に伝えていくことだと考えています。緒方富雄先生が大切にされた『ヒポクラテス誓詞』の中に書かれた『無報酬で後継者への医術の教育を行う』ことに従い、医療者となることを希望する学生や、卒業して医療者となられた方々の支援ができるよう自己研鑽を続けてまいります」



飯島教授



「緒方富雄賞」賞状

新年のごあいさつ

「明日が変わったら
世界はつづく」

中学校校長 水上 茂

謹んで新年のお慶びを申し上げます。平素は本校の教育活動に多くの皆様より多大なるご支援を賜り心より厚く御礼申し上げます。昨年4月、本校では、学習指導要領の改訂に伴い探究活動の時間が増設され、過日の学園祭でも多くの力作が発表されました。今回の指導要領改訂の本来の趣旨は現代的な諸課題に対応できる資質や能力を教科横断的に育成する事でしたが、奇しくもコロナ禍の最中、次々と現れる予せぬ課題にも取り組む事が出来る資質を鍛える機会となりました

先日、NHKの番組で、こんな歌が聞かれました。「世界は大きくて わたしたちは小さい けれどその世界を 毎日変えている わたしが変わったら 今日が変わったら 明日が変わったら 世界はつづく」(SDGsのうた)

国連での採択から7年を経て、今や当たり前のように目にするようになったSDGs。「行動の10年」の3年目となる本年、少しでも諸課題が解決に向けて前進することを願うばかりです。本年も皆様のご指導よろしくお願い申し上げます。

多様な経験を
大切に

文京幼稚園 園長 益田 薫子

新春のお慶びを申し上げます。

コロナ禍で制限の多い園生活も2年目になりましたが、出来る限りの日常を取り戻そうと一歩ずつ前に進んできました。未曾有であるがゆえ、保育の全てに実践方法の再検討が必要でしたが、その反面幼稚園として大切なことを深く考える機会にもなりました。

健康な心と体が育つためには、園で色々な経験をすることが必要です。課題に向かって克服する力を養うこともありますが、一番は「遊び」を通して多様な経験が出来るこ

とが大切です。園での遊びは、「面白い」「やってみたい」と子ども自身が感じることに始まります。さらに友だちとの関わりがあることで対話も生まれ、試行錯誤したり頭を働かせたりすることに繋がり、多くの学びとなるのです。園の保育者が、子どもの興味や関心をキャッチして遊びが発展できるよう環境構成を工夫し、子どもの考えが十分活かせるようサポートをしています。それが深い学びへと繋がり、「非認知能力」を育てることになります。今年も更なる保育の質向上を目指して努力してまいります。

Make smiles bloom

中学生徒会 会長 宮川 紗 良 (3年 菊組)



明けましておめでとうございます。

一昨年から流行している新型コロナウイルス。元通りの生活が送れるのはいつになるのかわからない日々が続いています。私たちが研修旅行や体育祭、芸術鑑賞会の中に加えオンライン授業の実施と、大きな影響を受けました。しかしそんな状況であったにも関わらず、文女祭という大切な行事を開催することが出来たことを心から嬉しく思っています。昨年と

同様、制限がある中での開催でしたが、来校いただく方々に少しでも楽しんでもらえるよう、SDGsを意識した飾りつけや、生徒から動画や写真を集めて作ったミュージックビデオの制作など、生徒会でも工夫を凝らしました。

第40期生徒会では「前進」をテーマに活動してきました。生徒の皆さんが前を向いて進んでいけるよう、任期満了まで全力で活動していきたいと思っています。

他大学や地域の方々との
交流を目指して本郷キャンパス学生自治会本部 会長
関野 修 平 (経営学部3年)

新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は学生自治会をはじめとした自治活動にご賛同、ご参加いただき誠にありがとうございました。昨年は、一昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、私たちの活動も制限せざるを得ないことが多く、学内での活動が中心となっていました。本年は十分な感染症対策を行いながら、安心・安全に配慮したイベント、他大

学や地域の方々との交流を深められる活動を企画運営していきたいと考えています。なかなか収束がみえない新型コロナウイルスの感染拡大。私たちにとっても難しい環境でのキャンパスライフは続きますが、本年も自治会員一同、精一杯頑張ってください。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新たな学びへ



高等学校校長 清水 直樹

年頭にあたり新春のご挨拶を申し上げます。

さて、本年より、新たな高等学校学習指導要領がいよいよ実施されることとなりますが、一体何が変わるのでしょうか。今回の改訂のポイントは、グローバル化や技術革新など、社会の変化に対応できる能力を身につけることです。「論理国語」「文学国語」「公共」など新たな科目が設置されるだけではなく、「どのように学ぶのか」→主体的・対話的で深い学びが求められることとなります。この新学習指導

要領は4月から開始される予定ですが、2012年にスーパーサイエンスハイスクール指定を受けて以降、本校の生徒たちは探究活動に積極的に取り組み、主体的に学ぶ姿勢と深い思考力を着実に身につけてきました。まさに、新たな学習指導要領が目指す学びのかたちが、本校ですぐに実現されているのです。教職員一同、本校の教育をさらに充実させるべく一層の研鑽を積んでまいります。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

日々の育ちと
学びのために

ふじみ野幼稚園 園長 柄田 毅

新年のお慶びを申し上げます。

新型コロナウイルス感染症防止に係る社会的な制限が段階的に緩和されているなか、今年も園児、保護者、そして教職員の安全と健康のために、継続的に感染対策に努めたいと存じます。ウィズ・コロナと言われるなか、新型コロナウイルス対策を含めた安全と健康に関する取り組みは、地域の幼児教育機関として大切なことです。幼稚園は、子どもたちが同年代の友だちと一緒に過ごす集団生活の場であり、仲間との関係を広げ、自分の興味や関心などを深め、自

立していこうとするところです。子どもは家庭や地域で経験したことを、幼稚園での生活で展開して、さらに家庭や地域での生活に活かしていきます。こうした過程は、子ども一人ひとりが好奇心や探究心を発揮し、知識や経験を広げ、思考力の基盤をつくることにつながります。そのためにも、園児が毎日登園し、園生活を通じて豊かな学びと育ちが継続するように保育を計画し、健康で安心して通うことができるように日々の準備を行いたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

充実した学校生活を

高校生徒会 会長 日高 花 音 (2年 檜組)



明けましておめでとうございます。

全世界で猛威を振るう新型コロナウイルスはいまだ終息の気配を見せることなく、社会のシステムや人々の生活に大きな影響を与え続けています。感染拡大に伴い通常通りにいかないことが増え、多くの行事は中止となりましたが、幸いなことに昨年度は学園祭を開催することができました。しかしコロナ禍での開催であったため、厳重

な感染対策に加え、今までの文女祭のイメージを一新する必要があり、運営方法にとっても苦悩しました。今年度は学園祭での経験を生かした様々な変化や困難にも柔軟に対応し、生徒の皆さんが充実した学校生活を送ることができる環境づくりを目標に活動していきたいと思っています。本年も高校生徒会総務役員一同、精一杯努めてさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

皆さんの「支え」に

ふじみ野キャンパス学生会本部 会長
庵袋 晴 輝 (人間学部3年)

新年あけましておめでとうございます。

厳しい時局の中みなさんのご協力により、新しい年を迎えることができました。旧年中には延期されていたオリンピック・パラリンピックが開催されるという明るいニュースもありましたが、2020年と同様にそれぞれ以上の新型コロナウイルスとの戦いを強いられた1年間でした。しかし、年末に近づくとつれ予断は許さないものの新規

感染者数は減少傾向に転じ、課外活動も徐々に再開されていきました。今年はそれに伴い学生生活や部活動の運営上で人員不足等の問題が起こる可能性が考えられます。オンライン・対面双方の利点を最大限生かしながら、皆さんの生活が少しでも良くなるよう、全力で支えてまいります。

ORIGINAL PROGRAM

大学「キャリアてっぺんフォーラム」開催

卒業生や就活を終え内定を得た4年生が、後輩たちに働く意味や内定獲得への実体験を伝える「キャリアてっぺんフォーラム」が、各キャンパスでオンラインにて開催されました。

ふじみ野
キャンパス

11月17日、社会で活躍中の卒業生2名と内定を得た学生1名が働く意味や就職活動について伝えたメッセージ動画がオンデマンド配信されました。同フォーラムを企画運営したキャリアてっぺんフォーラム学生実行委員長の松岡達也さん(人間学部児童発達学科2年)から次のコメントが寄せられました。



松岡さん

松岡「学生にとって初めて経験する就活は大きな不安があり、ストレスに感じることも多いと思います。同フォーラムでは、就活の様子や社会で活躍している姿を知ること、自分の将来の姿を描きながら就活を積極的に進めることを目的としています。学生からは『就活は人によって活動の仕方が違うので自分に合った方法を見つけることが重要ということが理解できた』『就活で必要なことは仕事をする上でも必要という言葉が印象に残った』などの感想がありました。就活を進める中で、今日の体験談を活かしていれば幸いです」

〈発表者〉学生発表者敬称略

株式会社ロフト 植松柚衣様(2021年人間学部心理学科卒業)「大学時代と社会人」
ルートイングループ 高橋碧衣様(2020年人間学部児童発達学科卒業)「仕事の魅力」
城南信用金庫 森あかね(人間学部人間福祉学科)「準備をしっかりとした就職活動を」

本郷
キャンパス

12月1日、内定を得た学生7名による就活体験談がライブ配信されました。また、第2部として3名と1年生2名、キャリア戦略会議委員長の高橋修一郎(外国語学部准教授)による就職活動に関するパネルディスカッションが開催されました。キャリアてっぺんフォーラム学生実行委員長の村瀬美咲さん(経営学部2年)から次のコメントが寄せられました。



村瀬さん

村瀬「コロナ禍で大変厳しい就活を乗り越えた頼もしい先輩方の体験談を12月1日にライブ配信し、以降オンデマンドで配信しております。今年は経営学部・外国語学部・人間学部コミュニケーション社会学科も含め、7人の先輩方に登壇していただきました。このフォーラムで、後輩の皆様には就職活動に関する漠然とした不安やイメージを明確にし、早期からの取り組みに活かしてもらいたいです。私たち委員も大きな刺激をいただきました」

〈発表者〉敬称略

トヨタカローラ福島株式会社(小売) 小林愛香(人間学部コミュニケーション社会学科)「自分に合った就職活動」
株式会社SMSデータテック(IT) 寺園沙紀(経営学部)「早めの行動で納得のいく就職活動を」
株式会社ファーストリテイリング(小売) 大倉郁実(外国語学部)「百聞は一見に如かず」
株式会社NFCホールディングス(保険) 水野雄大(経営学部)「納得できる就活をするために」
株式会社システムズ(IT) 杉山果音(外国語学部)「人は人、自分は自分」
株式会社 高速(商社) 朝海省吾(経営学部)「就活体験録」
株式会社 旅工房(旅行) 野原由紀子(外国語学部)「引き出し作りが大切!早めの行動を」

大学「ゼミナールオープン大会」開催

「ゼミナールオープン大会2021」が、12月4日にオンラインにて開催されました。同大会は、経営学部生で構成する「ゼミナール協議会」が主催しており、今回は経営学部10ゼミから44チーム・231名の学生が参加しました。

社会課題を明確にし、解決策を提案する「プレゼン部門」には、20チームが4つのブロック(A~D)に分かれて参加。また、ゼミで研究しているテーマでの実証研究や事例分析を発表する「研究部門」には、24チームが4ブロック(E~H)に分かれて参加しました。参加学生は日頃の研究成果を存分に発表し、次のチームが優秀賞を受賞しました。

【プレゼン部門】

Aブロック: 藤田ゼミ3年 伊藤チーム
「ニューノーマルにおける大学の学習形態の検討」
Bブロック: 新田ゼミ3年 イーブイ班
「犯罪を未然に防ぐ第一歩 ~地上用変圧器の落書き防止~」
Cブロック: 新田ゼミ3年 CMG's
「How do you shop? ~Z世代は本当にジェンダーレスなのか?~」
Dブロック: 馬渡ゼミ3年 レッグ・ブイーン
「自分の大学に自信を持ちたい! ~Pride of Bunkyo~」

【研究部門】

Eブロック: 新田ゼミ2年 A
「アイドルオタクのグッズ購買」
Fブロック: 新田ゼミ3年 キャッシュレス班
「なぜ日本のキャッシュレス利用は進まないのか ~要因分析と改善案~」
Gブロック: 新田ゼミ2年 B
「照明による影響 ~洋服に与える印象の違い~」
Hブロック: 新田ゼミ2年 C
「若者がノスタルジアを感じる要素の解明~視覚的視点より~」



会長の立石さん



副会長の今井さん

ゼミナール協議会会長の立石理菜さん(3年)、副会長の今井萌菜美さん(3年)から、大会を振り返って次のコメントが寄せられました。

「オープン大会を開催することができ、大会実行委員会顧問である経営学部准教授の高橋円香先生をはじめ、大会に関わってくださった全ての皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。私たちゼミナール協議会は、オープン大会の運営者であり参加者という二つの立場でこの大会に関わりました。大きな責任を負い、慣れない仕事も多く大変に感じることもありましたが、沢山の方々にご協力いただき関わったことはとても良い経験になったと感じています」

大学「文京オレンジデーキャンペーン」を展開

文京区では毎年UN Women(ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関)と協力して、11月25日「女性に対する暴力撤廃の国際デー」から12月10日「世界人権デー」までの16日間、暴力のない明るい未来を象徴する色「オレンジ」をシンボルカラーとした、暴力撤廃を呼びかける活動を展開しています。本学でも、同活動に賛同し、2016年より文京区と連携して啓発活動を行っており、今年も、外国語学部甲斐田万智子教授のゼミナールに所属する学生と同学部の学生が参加して、啓発グッズの配布、SNSでのメッセージ発信などを実施しました。

また、12月3日には甲斐田ゼミ生が「女性に対する暴力に関するワークショップ」を開催し、参加者は日本だけではなく世界で起きている問題について学びました。学生たちは、身近な女性への暴力の実態を知り、それらを伝え、女性に対する暴力をなくす活動を今後も展開していきます。



参加した学生と甲斐田教授(前列中央)

大学「大学開学30周年記念 バーチャル国際シンポジウム」開催

「大学開学30周年記念 バーチャル国際シンポジウム」(主催:経営学部国際交流委員会)が、12月11日にオンラインにて開催されました。本シンポジウムは、「ポストCOVID-19時代におけるグローバル経済・経営と大学教育のあり方」をテーマとして実施され、一般参加者や教職員など約50名が参加しました。

本学経営学部の中島真澄教授の司会により、まず、櫻井隆学長と島田昌和理事長が挨拶。続いて、日本を含め世界6カ国の大学教授による基調講演が実施されました。本学からは、経営学部の絹川直良教授が講演。最後に中島教授が感謝の言葉とともにシンポジウムを総括し、有意義な4時間を締めくくりました。

[講演者]

基調講演1: Prof. Dr.D. Paul Scarbrough / Brock University (カナダ)
基調講演2: Prof. Dr.David A. Ziebart / Von Allmen School of Accountancy, University of Kentucky (米国)
基調講演3: Prof. Dr.Christo Karuna / Monash University (オーストラリア)
基調講演4: Assoc. Prof. Dr. Siti Zaleha Abdul Rasid / Universiti Teknologi Malaysia (マレーシア)
基調講演5: Prof. Naoyoshi Kinukawa / Bunkyo Gakuin University (日本)
基調講演6: Prof. Dr. Mohammed Elgammal / Qatar University (カタール)



シンポジウムで司会を務める中島教授

ひたむき・まへむき・おもむき
tomoちゃん

第78回

画:美術部(高校) 廉

